鹿児島市谷山地区・錫山相撲の現在

～三五〇年以上続く伝統の相撲行事～

武田　篤志*・奥山　智裕**

1　はじめに

本稿は，鹿児島市谷山地区・錫山の地に350年以上続く「錫山相撲大会」についての調査報告である。錫山相撲は「筑紫の三土俵」の一つとも言われているが，既往の研究文献に乏しくその実態についても資料が残されていない。そこで本稿では，筆者らが昨年から実施してきた取材をもとに，錫山校区および錫山相撲大会の概要を整理し，第358回錫山大会（2015年11月3日開催）当日のドキュメントをまとめることを目的とする。また，今年11月3日に開催された第359回大会にて実施したアンケート調査の結果も加味して，今後の錫山相撲大会の発展について必要なことがらについても若干ながら考察したい[1]。

2　錫山相撲とは～フィールドの概要～

（1）沿革

錫山は古くは鹿追原と呼ばれ，人々は鹿やその他の動物を取って原始的な生活を送っていた（縄文土器，石斧，石のやじり等が出土していることからも先住民がいたと思われる）。その後，明歴元年（1655）11月15日に八木主人佑元信が錫鉱を発見したことにより錫山の歴史が始まったと言われている。元信は，私財をもって鉱山の開発に努めた。近くに鉱山がなかったため，尾張，美濃，但馬（生野），備後，伊予，近江などから鉱山技術者を集めて開発したという。薩摩藩もこれを保護し士族の待遇を与え，元信とその子・宗信はそれぞれ勘定奉行，物奉行役に登用された。女郎を連れてきて山師たちの慰安を図ったともいう。島津氏は元禄14年（1701）に幕府から正式に採掘許可を受け，錫山を藩の所有とし島津氏直営の鉱山とした。

時代が下り，昭和15年（1940）に帝国鉱山開発株式会社によって本格的な採掘が開始され，途中幾人かの間をわたり――昭和26年（1951）九重錫山鉱山から西南興業株式会社を経て，昭和43年（1968）三菱金属鉱山株式会社が譲り受けた――昭和51年（1976）に協和鉱業株式会社へ鉱業権が移り採掘が行われていた。しかし，昭和61年（1986）に地金の相場が下がり，第1次縮小～第2次縮小を経て休山となった。錫山鉱山は日本の錫生産においては三指に入り，郷土史，鉱業史，産業考古学，観光などの分野で重要とされている。

キーワード：錫山相撲，大山祇神社，鹿児島市，谷山地区

＊本学経済学部准教授
＊＊本学経営学科4年

1　相撲大会の準備作業および谷山ふるさと祭の取材は奥山，第358回大会および第359回大会の取材は武田・奥山（第358回は武田ゼミの学生が2名撮影補助として同行），その他地元関係者への聞き取りなどは奥山が担当した。また，本稿の執筆分担については双方の取材メモと草稿をもとに統合し全体の調整を武田が行った。

錫山相撲の由来もまた錫山鉱山にある。八木元信が錫鉱山の安全と発展を祈願し延宝5年（1677）に大山祇神社を創建して以来，同神社の奉納相撲として始まったのが錫山相撲である（また鉱山労働者の苦労をねぎらう意味で始まったともいわれる）。以来，現代までこの相撲は継承され，鹿児島でも知る人ぞ知る相撲大会として存続してきた。昭和37年には大相撲の横綱・柏戸も錫山を訪れている（写真1）。また，平成19年（2007）の第350回大会は大相撲の陸奥部屋（元小関霧島親方）を招き，九州場所後の12月１日に盛大に開催された。

写真1　横綱柏戸関の来訪（昭和37年）（錫山校区 立神館所蔵）

（２）錫山校区の概要

・住民数：140世帯（350人），うち町内会加入者が123世帯（330人）

・町内会：錫山町内会，岩屋町内会

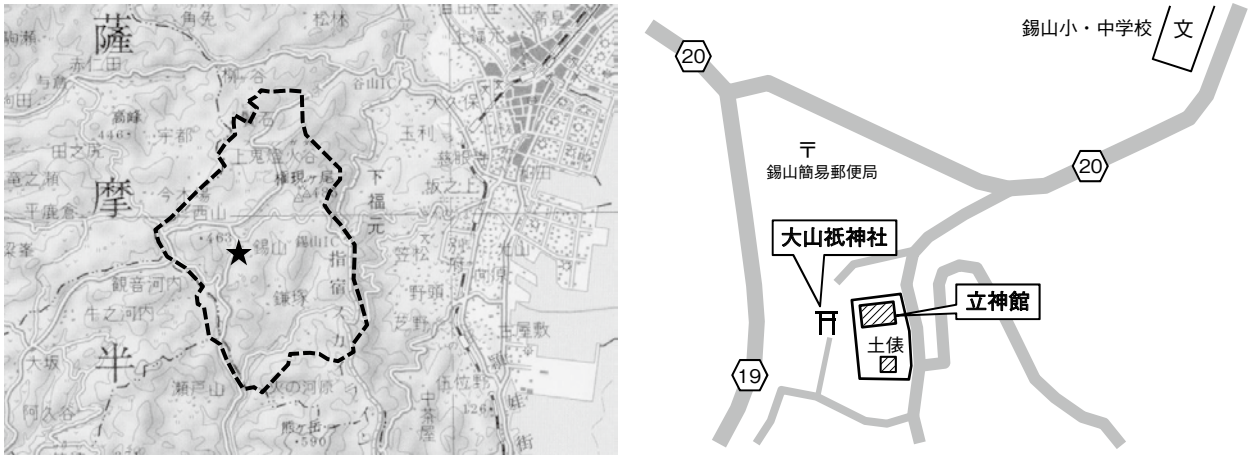

図1　錫山校区の位置と相撲大会の会場

（３）運営体制

錫山相撲大会は，以前は錫山校区公民館運営審議会が主催していたが，平成28年6月26日からは「錫山地域づくり協議会」に改組され，45人のメンバーが中心となって運営している（会則はとくに定めていない）。

なお，相撲大会に係る予算については非公表のため詳細は不明だが，基本的には錫山校区内外の方々からの寄付金により運営しているとのことであった（この寄付金が相撲大会での懸賞金などに充てられる）。

３　平成27年度・第358回錫山相撲大会の記録

ここでは，第358回錫山相撲大会について筆者たちが準備作業から本番当日の様子までを追った取材の成果を記録として掲載する。

（１）準備作業

相撲大会の開催に向けて，錫山校区の住民たちによってさまざまな準備が行われる。ここでは相撲大会の会場で行われた土俵作りとしめ縄作りの様子を紹介する（実施日2015.10.18）。筆者（奥山）も実際に作業を手伝いながら取材した。作業は朝の9：30から始まり昼食をはさんで16：00頃に終了した。

①土俵作り

・整地作業

土俵の周囲では土を固めて凸凹がないよう整地が行われ，土俵上では小俵を埋め込むための溝が掘られている（写真2）。土俵は一辺が6.70m の正方形の上に高さ34～60cm ほど台形状に盛り土して，中央に直径4.55m の円を作る。今回，円の直径を確認したところ本来の長さと異なっていたため，測り直して修正しつつ掘っていた。また会場の片隅では，大会当日の土俵に撒くための砂をふるいにかけ小石などを取り除く作業もしていた。

・小俵作り

土俵の整地と同時進行で小俵（おだわら）作りも行われた。材料となる稲藁を手でひと掴み分ほど揃えて持ち，木などに数回叩き付けてほぐして柔らかくする（写真3）。この藁をきれいに整え所定の太さで束ねてひもで縛る。あとは藁束を継ぎ足しながら長くしていく（写真4）。

写真2　土俵の整地と溝掘り

写真3　藁をほぐす

写真4　小俵の製作

・小俵の埋め込みと仕上げ

できあがった小俵を土俵に掘った溝に埋め込んでいく（6割を埋めて4割を地上に出す）。余った分は藁切器で裁断して調整する（写真5）。土俵上の勝負俵（中央の円）と徳俵，角俵（土俵の四辺の俵），あげ俵（土俵の四柱の手前の俵），側面の踏み俵（足をかける部分）を作れば土俵の出来上がりとなる。仕上げとして小俵にずれがないか確認し，隙間があれば土を詰めて補強する（写真6）。最後に，埋め込み作業の際に荒れた箇所をもう一度整えて完成。なお，この日の土俵作りを終えたら相撲大会当日までは誰も土俵には入らない。

写真5　小俵の埋め込み

写真6　仕上げと最終確認

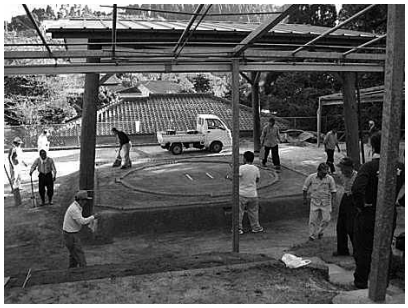

写真7　完成した土俵

②しめ縄作り

この日は土俵作りと並行してしめ縄作りも行われた。しめ縄は土俵の屋根や大山祇神社の鳥居と社殿に張る。まず材料に用いる藁を藁打機で柔らかくする（写真8）。次に藁束を吊るして，3人がかりで3本の縄をねじりながら編んでいく（写真9）。仕上げにはみ出た細かい藁をハサミで切りきれいに整えて完成。

写真8　藁打機

写真9　しめ縄を編む作業

写真10　しめ縄の仕上げ

（２）第36回谷山ふるさと祭・総踊りへの参加

錫山校区では毎年，相撲大会直前の10月下旬に開催される「谷山ふるさと祭」（主催：谷山ふるさと祭振興会）に参加する。この祭りは谷山地区最大のイベントで，平成27年度は10月25日（日）に行われた。なかでも総踊りは祭りのメインとなっており，谷山地区の町内会や小・中学校，企業などから踊り連が参加する。参加者たちはおはら節やハンヤ節に合わせて踊りながら谷山の街なかをパレードする（詳しくは武田 2014を参照）。錫山校区の住民は錫山相撲の宣伝も兼ねて参加しており，とくに相撲をモチーフにした扮装とパフォーマンスで異彩を放っている（写真11）。今回は筆者（奥山）も同校区のメンバーとして参加させてもらった。

写真11　第36回谷山ふるさと祭

（３）相撲大会当日（平成27年11月3日）

開始前～会場の様子～

開始時刻の30分ほど前に，会場となる錫山校区の立神館に到着すると，敷地内には大きなのぼり旗が3本立てられ，相撲会場の雰囲気を盛り上げている（写真12）。すでに慌ただしく直前の準備作業が行われており，入口にはテントが設営され，係の人が受付の準備をしたり来賓用のお弁当とお茶を用意したりしている。来場者はここで大会プログラムや抽選権をもらったり，赤ちゃん土俵入りの申し込み手続きをしたりする。当日の寄付金も受け付けている。

写真12　相撲大会当日の会場

立神館の中の炊事場では地元のご婦人方が昼食の準備をしている。大会に出場する力士たちはここで昼食をとったり，着替えをしたりする（裏手の方にまわしを付ける部屋が用意されている）。この建物の入口に面した壁には今回の相撲大会への寄付者一覧が立て看板で張り出されている。当日寄付をした人の氏名もここに記載してくれる。

建物の南側には広場が広がり，観客席と土俵がある。客席はなだらかな階段状になって下っており，ビニールシートやござが敷いてある（いちおう屋根付きだが現在は骨組みだけ）。土俵ではまだ作業をしており，脚立を使って，屋根の下に先日作った大きなしめ縄を対角線上に2本取り付けている。また，土俵中央にはこんもりと砂が盛られて御幣が差し立ててあり，4本の柱の元にもそれぞれ砂山が盛られている。ちなみに，この屋根付きの土俵は昭和62年（1987）に，住民らでつくる相撲保存会が建立したものだという。土俵の南側には本部席と来賓用のテントが建ててある。ここから会場アナウンスを行う。会場のすぐ隣に大山祇神社がある。9時少し前にこれから社殿で神事が行われるとのアナウンスが入った。

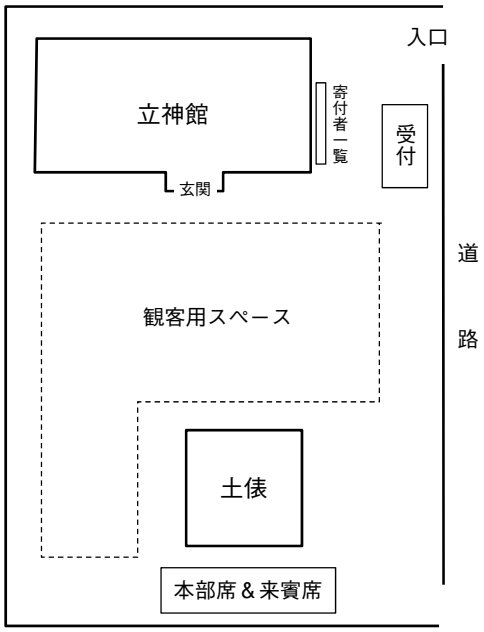

図2　相撲大会会場の見取り図

第358回 錫山相撲大会プログラム

平成27年11月3日(火・祝)錫山相撲道場

進行時間	プログラム内容
9:45	地元一般力士による土俵開き
10:00	錫山小・中児童生徒による取り組み(学年個人・三人抜き)
11:00	鹿児島市長・市議・錫山相撲実行委員長　挨拶
11:15	鹿南・鹿実・樟南高校相撲部による対抗戦(団体・個人・三人抜き)
12:45	高校相撲表彰式
13:00	中入り・相撲甚句(地元力士・一般他)
13:10	赤ちゃん土俵入り　　[受付は 10:00～12:00]
13:40	一般力士による対抗戦・個人戦・三人抜き
14:30	地元力士による　これより三役
14:45	弓取式(立神山)
14:50	万歳三唱
15:00	抽選会
～ 状況により プログラム変更等の場合はご了承ください ～	

今回の錫山相撲大会に、物心両面からご協力いただきました皆様方に、厚くお礼申しあげます。役員の方をはじめとし、役員外の皆様から多大なお気持ちをいただいております。まことにありがとうございました。

※ 相撲実行委員会からのお願いです。
車で相撲観覧に来られた方は、くれぐれも飲酒運転されないよう、よろしくお願いいたします。

図3　第358回大会のプログラム

9:00　大山祇神社での神事

毎年相撲大会を始める前に，会場に隣接した大山祇神社で本日の安全を祈願して神事が行われる（写真13）。谷山神社の宮司が来て神事を執り行う（鉱山が休山する以前は錫山の鉱業発展も祈願していた）。

写真13　大山祇神社での神事

9:30　土俵の祓い浄め

神事が終わると宮司らは相撲会場へと移動し，土俵を回りながら四隅の柱や踏み俵に塩を撒きお祓いをする。

＊しばし準備の後，これから地元力士による土俵開きが行われるとの会場アナウンスが入る。

10:00　地元力士による土俵開き（土俵祭り）

いよいよ相撲大会が始まるが，取り組みの前に土俵開きの儀式（土俵祭りともいう）が行われる。これは相撲大会の無事を祈って行うもので，儀式は行司が執り行う[2]。また，錫山相撲では土俵開きで地元住民（または出身者）の男性2人が三番相撲をとることになっている。今回はともに厄年の男性が務めた（会場

2　錫山相撲では行司が2人いるが，1人は谷山在住の方で60年以上務めておられる。もう1人は加世田から来ていただいているとのことであった。

アナウンスで友人同士と紹介があった)。

先に準備してあったように，土俵中央には砂山に御幣が4本差し立ててあり，その傍らに御神酒と塩が置かれている。まず行司が砂山に御神酒をふりかけ塩を四方に撒いて祓い浄めをして祝詞を上げる。次に，土俵脇で待機していた地元力士2人が行司に呼ばれ，東の力士から土俵に上がり御神酒を手に取って自分の側の柱2本にかける。続いて西の力士も同様にする。それが済むと行司がまた祝詞を上げ儀式を終える。この後2人の力士は御幣を1本ずつ四つの柱にくくり付け，中央の砂山を崩して土俵を均し相撲をとれるよう整える。

写真14　土俵でのお祓い

準備ができると地元力士2人による取り組みが始まる。これは儀礼的なもので，1勝1敗で来て，最後の一番はなかなか決着がつかず行司預かりということになり，勝負は引き分けとなった（毎回土俵開きでの取り組みは引き分けで終わる)。最後に双方の力士へ大会実行委員やその他寄付者からの金一封が授与された。

＊土俵開き終了後，土俵の緑色の柱に弓がくくり付けられた。

写真15　土俵開きの様子

10:15　錫山小・中児童生徒による取り組み

ここからいよいよ本格的な取り組みが始まる。対戦方法は個人戦と3人抜きからなる。個人戦は選抜者での対戦またはトーナメント方式（一般力士から）で行う。3人抜きは3連勝した力士が最終的な勝者となるいわゆる勝ち抜き戦で，勝者が土俵上に残りその他の力士が次々と挑戦していくかたちで進める（これを何本か行う)。

まずは錫山小・中学生による取り組みであるが，ここでは子ども同士だけでなく学校の先生や親との対戦など，観客も楽しめるよう趣向を凝らしている。小学生の個人戦は学年ごとに選ばれた者同士で対戦し，3人抜きは低学年，中学年，高学年でそれぞれ1本ずつ行った。次に中学生だが，ここからは力士が土俵上で塩を撒く所作が入る。個人戦はやはり学年順に行い，3人抜きは2本行った。

一度土俵に水を撒いて整えてから，錫山小・中の児童生徒 対 先生の取り組みが始まる。小学校・中学校それぞれ先生1人に対して，小学生4人，中学一年生3人，中学二年生2人，中学三年生2人がそれぞれまとまって挑戦する。小学生の取り組みでは先生がわざと負けていたが，中学生の取り組みになると先生も少し本気になる。学年が上がるにつれ真剣になっていき，三年生との取り組みでは先生がつい勝ってしまった。しばし土俵を整えてから，最後は親子での対戦が行われた。小・中学生の子を持つ親が自分の子どもと相撲を取るもので，全部で七～八番行った。

＊終了後，行司が土俵上で寄付者の名前を読み上げた。

写真16　小学生・個人戦①

写真17　小学生・個人戦②

写真18　中学生・個人戦

写真19　児童 VS 先生

写真20　中学生 VS 先生

写真21　親子での取り組み

11:20　鹿児島市長・市議・錫山実行委員長 挨拶

ここで相撲を一旦中断し，鹿児島市長（代理）や市議，県議，そして錫山相撲大会実行委員長による挨拶が行われた。錫山相撲のことを広めてもらおうという考えの下，主催者が毎年，市長らに案内を出しているという。

＊終了後に会場アナウンスが入る（受付で抽選券を受け取るよう告知，東北豪雨災害義捐金への協力呼びかけ）

写真22　来賓の挨拶

11:35　鹿商・鹿実・樟南高校相撲部による対抗戦

高校相撲部による対抗戦では，相撲部がある市内の3校，鹿児島商業，鹿児島実業，鹿児島樟南高校による取り組みが行われる。はじめに行司から挨拶があり，前回優勝校の鹿児島樟南高校相撲部から錫山相撲大会実行委員長に優勝旗が返還された。その後さっそく各校が西と東に分かれて団体戦が始まる。高校相撲部による取り組みは本格的で，他とは違った力強い迫力がある。団体戦は今回も樟南高校の優勝で終わった。その後，個人戦と3人抜き（3本）が行われた。

＊対抗戦終了後，遅れて到着した国会議員から挨拶あり

12:10　高校相撲表彰式

優勝した樟南高校に優勝旗とトロフィー，賞状が贈られた。

＊会場アナウンス（中入り参加者は土俵下に集合と連絡）

写真23　高校相撲の様子

12:30　中入り・相撲甚句（地元力士・一般ほか）

昼からは相撲甚句とともに中入りが行われる（ここからは武田ゼミの2年生3名も参加している）。相撲甚句は，錫山の風物，地形，季節の移り変わりなどを来場者に披露する意味を込めて歌われる。リズムは一緒だが，歌詞は決まっておらず，毎回歌い手の創作により内容が変わる。今回は2曲披露された（歌い手に加え合いの手役が1人付いた）。地元力士・一般参加の力士たちはこの甚句とともに土俵上を回り，「どすこい，どすこい」のあと柏手を打つ。

＊終了後，参加した力士全員に金一封が渡された。

写真24　中入り・相撲甚句

12:50　赤ちゃん土俵入り

一般力士の対戦前に赤ちゃん土俵入りが行われた。これは子どもの無病息災・健康祈願の儀式で，昔から力士に抱っこされた赤ちゃんは健やかに育つといわれる。元来相撲が神事で，力士は神の使いであることに由来しており，錫山以外でも広く行われている（錫山相撲では地元住民に限らず受付で申込みをすれば誰でも参加できる）。

アナウンスで赤ちゃんの名前が呼ばれると[3]，まわし姿の父親（またはこの日出場の力士）が赤ちゃんを抱っこして東から土俵に上がる。客席側を向いて四股を踏み，赤ちゃんを土俵に立たせるしぐさをする。そのあと塩を手に取って赤ちゃんの口元にやるしぐさをしたら東側の徳俵の所で蹲踞し，行司から四股名（本名にちなんで付けられる）を声高らかに読み上げてもらい終了。土俵を降りるさいに行司から四股名が書かれた色紙をもらう。元気に泣く子，大人しい子，ニコニコしている子など，愛くるしい赤ちゃんたちの表情に会場も和む。土俵のそばでは土俵入りを済ませた家族が記念写真を撮っていた。

写真25　赤ちゃん土俵入りの様子

3　この時両親の名前や住まいとともに赤ちゃんの四股名，そして両親からのコメント（例「すくすく元気に育ってほしい」など）も会場に紹介される。

13:10　一般力士による対抗戦・個人戦・3人抜き

午後，観客の入りも多くなる時間帯で，地元住民らが参加する一般力士たちの取り組みに入る。会場も盛り上がる。最初に錫山と大坂[4]の対抗戦が行われた。これは毎年恒例の対戦で，勝者には優勝旗が贈られる。まず前回勝者の大坂から優勝旗が返還され，その後団体戦と3人抜きが行われた。団体戦は3人制で行われ，今回も大坂の勝利で終わった（先鋒：大坂勝利，中堅：錫山勝利，大将：大坂勝利）。続いてこの出場者全員で3人抜きを2本行った。

次に一般力士による個人戦が始まり，総勢16名でのトーナメント戦が行われた（ゼミ生たち3名も奮闘したが，残念ながら2回戦で皆姿を消した）。続いてこのメンバーで3人抜きが5本行われた。

＊3人抜き終了後，会場アナウンスで「お好み相撲」[5]のリクエストがあったと案内が入り，指名された力士2名でもう一番相撲を取った。

最後は錫山力士の最強を決める錫山杯が行われた。その場で選手8名が呼び上げられトーナメント戦を行う。今回，ゼミ生たちも錫山の力士ということにして出場させてもらったが，そのうち1人がまさかの決勝進出を決めた。水を撒き土俵を整えたあと決勝戦が行われたが，結果は残念ながら優勝ならず。

終了後，表彰式があり全員に懸賞金が渡され，錫山対大坂で勝った大坂には優勝旗，錫山杯の優勝者にはトロフィーと賞品が授与された。

写真26　錫山と大坂の力士たち

写真27　錫山 VS 大坂

写真28　一般力士・個人

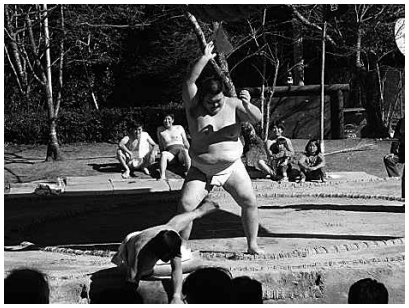

写真29　一般力士・個人決勝

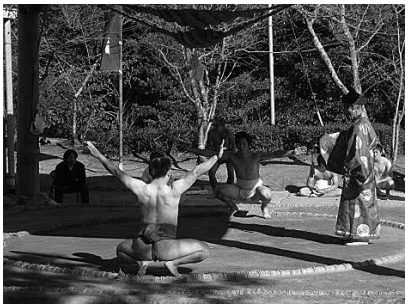

写真30　錫山杯・決勝

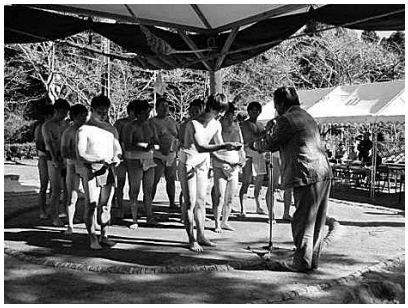

写真31　表彰式

14:40　地元力士による　これより三役

これより三役とは，大相撲千秋楽での結びの三番の取り組みである。三役とは大関，関脇，小結のことで，錫山では階級が決められておらず，だいたいの強さで決めているという。これより三役では，相撲を取る前に力士3人が土俵に上がり扇形の三角形に並んで揃って四股を踏む。これを「三役揃い踏み」という。その後，力士が東西に分かれ，小結，関脇，大関の順で取り組みが行われた。勝った力士には懸賞金

4　大坂（だいざか）は南さつま市金峰町の集落で，こちらでも毎年同時期に相撲大会が開催される。錫山と隣接していることから相撲以外の行事などでも交流がある。

5　錫山相撲では，観客が懸賞金を出して自分の好きな力士同士を対戦させるリクエストができる。勝った方の力士がその懸賞金をもらえる。

に加えて弓矢の一部が授与される。最初の取り組みの勝者には「小結にかなう」として矢が，次の勝者には「関脇にかなう」として弦が，結びの取り組みの勝者には「大関にかなう」として弓が与えられる。

写真32　三役揃い踏み

14:50　弓取式

弓取式とは，これより三役の結びの取り組みで勝った力士に代わり，作法を心得た力士が土俵上で弓を受け，勝者の舞を演ずる儀式である（昔は結びの取り組みに勝った力士が行っていた）。今回は地元力士の立神山が務めた。

14:55　万歳三唱

すべての取り組み終了後，会場にいる全員で万歳三唱を行い錫山相撲大会は閉幕した。

写真33　弓取り式

写真34　万歳三唱

写真35　抽選会

15:00　抽選会・片付け

万歳三唱の後，抽選会が行われる。会場の受付では相撲大会に来た人全員に抽選券が配られており，抽選を行う。景品が当たった人が出るたび観客から拍手が上がるなど会場が盛り上がる。

抽選会とほぼ同時に関係者は会場の片付けにとりかかる。土俵に取り付けられていたしめ縄の取り外しは手慣れた人が行い，その他は客席用のブルーシートやござを畳んだり，テントを解体してパイプ椅子と一緒にトラックへ積み込んだりなどの作を行う。

16:00　打上げ（慰労会）

片付け終了後，地元関係者全員が立神館に集まり打上げを行った。最初に錫山相撲実行委員長から挨拶があり，差し入れの品や抽選会での景品の提供者を読み上げ紹介した。乾杯の後は料理を食べながら歓談に興じた。料理は，錫山の女将さん方が作ってくれたおにぎりと豚汁が振る舞われた。なお，このとき縁起物ということで，お祭りで奉納した御神酒（焼酎）を同席者全員で回し飲みした。筆者らもご相伴に与り，退席するさいに1人ずつ前に出て挨拶し，自己紹介と今日の感想をひと言ずつ述べた。

写真36　片づけ作業

写真37　打上げ

写真38　ひと言挨拶（筆者 奥山）

4　会場アンケートの結果～平成28年度・第359回錫山相撲大会での調査より～

筆者たちは翌年の第359回錫山相撲大会で来場者を対象にアンケート調査を実施した。以下ではその集計結果を掲載する。

日　時：2016年11月3日（火）／10:00～12:00

対　象：相撲大会の会場を訪れた観客80名（当日の来場者数は約300人）

方　法：調査票を用いたアンケート（その場で記入してもらい回収）

＊調査票は末尾の付録資料を参照

写真39　アンケート調査の様子

質問１　来場者の属性

	男性	女性
性別	42	38

	錫山校区内	錫山校区外	県外	無記入
住まい	11	66	1	2

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	9歳
年齢	4	6	15	15	5	15	18	1	1

	小学生	中学生	高校生	専門学生	大学生	農林・水産業	商工業	会社員	専業主婦	公務員	学校関係者	無職	その他
職業	1	1	3	0	3	1	2	19	12	7	6	13	12

質問２　これまで相撲大会に来た回数

はじめて	2～4回以上	5回以上	10回以上
29	12	15	24

質問３　上記で「はじめて」を選んだ人で、どうやって相撲大会を知ったか

広告	雑誌・書籍	錫山の友人	錫山外の友人	その他
9	0	5	7	8

※参考：「はじめて」を選んでいないが記入した人の回答

広告	雑誌・書籍	錫山の友人	錫山外の友人
1	0	8	6

質問４　大会のうち何を目当てにして来たか

相撲大会全体	小・中学生	高校生	赤ちゃん土俵入り	地元・一般	その他
49	17	9	4	6	2

質問５　一緒に来た人

家族	親戚	友人	恋人	１人	その他
44	1	9	1	23	2

質問６　来年もまた来たいか

はい	いいえ	わからない
71	0	9

質問７　自由回答（意見・要望など）の内容

〈錫山校区の住民〉

・校区外からも子供を参加させて欲しい。(40代・男性)
・錫山相撲大会がこれからもずっとつづいてほしいです。(10代・女性)
・伝統ある錫山相撲が今後も続くように，盛り上げていきたいと思っています。(30代・女性)
・伝統ある行事なのでこれからも続いてほしいです。(30代・女性)
・少人数の小・中学校なので，児童と生徒がもっと増えますようご協力ください。(40代・女性)
・錫山の小中学生が増えたらもっとおもしろくなる！と思う。(30代・男性)

〈錫山校区外からの来場者〉

・永く続いてほしい。(70代以上・男性)
・歴史ある相撲大会なので若い人達に知って頂きたいです。レポートがんばって下さい。(50代・女性)
・長く続く事を願っています。(70代以上・女性)
・相撲大会が続けられる様，願っています。(60代・男性)
・初めて見に来ましたが楽しく観覧出来ました。(40代・男性)
・毎年，看板（道路沿いの）を見るたび気になっていました。今回，時間が合ったのできました。だんだんと住民が（子供も）少なくなる中いろいろと大変だとは思いますが，末永く続くことを祈っています。(40代・女性)
・こんなに大きい大会だとは知らなかった。地元の人が集まって盛り上がっていて，とても素晴らしい。これからも続いていってほしいと思う。(30代・女性)
・本格的な相撲の様子におどろきました。歴史ある大会，続いていってほしいと思います。(30代・男性)
・長い歴史をもつと聞いていたので，出席してみました。親子相撲でみられるように，勝負を度外視した点，慣れない形のなかにもまじめさも感じました。(60代・男性)
・途切れることなく続いて実施されているということが，とても貴重であると思います。これからも長く長く続いて，住民を中心に興味・関心をもって，こられる方の場になって欲しいと思います。(50代・女性)
・錫山の伝統行事として，これからもずっと継承していってほしいと思います。(40代・女性)
・離島では恒例行事ですが，市内では珍しいので，頑張って残していってくれたらと思います。(40代・女性)

・伝統あるものなので，学校も協力して続いていけたらいいと思います。(30代・女性)
・毎年見応えのある相撲で，たのしませてもらっています。伝統なので，やはりまわし以外（スパッツ等）を着るのはむずかしいのでしょうか？（30代・女性）
・錫山の西郷と島津の殿様の大会の歴史をパンフレット化して欲しいです。(70代以上・男性)
・もっと広報を工夫すればいいのにと思いました。あまり知られていないと思います。とてもすばらしい行事なので広く知ってほしいです。(40代・女性)
・毎年楽しみにしています。また来年もぜひ来たいと思います。関係者の皆様ありがとうございます。(50代・男性)
・PR が少ない。道と場所をたずねながら来ました。(60代・女性)
・子供の学校の先生に誘われて，初めて見ました。地域外の出場が1人だったので，もっと盛んになるといいなと思いました。(年齢不詳・女性)
・近くで初めて相撲を見ました。まわしも初めてつけて，嬉しかったです。(10代・男性)
・駐車場がわかりにくかったです。小さい子供も連れて来たので，お昼ごはんをどうするか困りました。うちの小学校にも相撲が大好きな子がいたので（校区外でも来ていいと思ってなかったので），学校単位でお知らせなどがあれば喜んできたいと思います。(40代・女性)
・伝統を守って下さい。(70代以上・男性)
・錫山校区の皆さんが大事にしている相撲大会であることが伝わってきました。これからも応援したいと思います。(60代・男性)
・早目に出来る事ならテレビ等で流してください。(70代以上・男性)
・校区外の見学客に対しての観覧席がほしい。(70代以上・男性)
・継続は宝なり。(70代以上・男性)
・校区が一体になり協力・楽しんでおられる様子に感激いたしました。(70代以上・女性)
・これからも子どもたちが引き継いでいってくれるよう，校区方々のご指導をお願いいたします。(40代・女性)
・ぜひ長く続けてもらいたいです。(60代・男性)
・地域の皆さんで盛り上げておられる事に感動です。これからも続けて行かれる事を願います。(60代・女性)
・伝統行事の継続を願っています。(70代以上・男性)

5　おわりに

2年にわたる取材により，350年以上の伝統を誇る錫山相撲は，鉱山の休山以後も住民に親しまれながら守られてきたということがよくわかった。一方で錫山校区じたいの人口減少により，その存続に苦慮しているという事情もうかがえる（毎回若手の参加者の数が少なく，人集めに苦労されている）。ここでは紙幅の都合もあるので，アンケート調査の結果から見えてくるものをひとつの手掛かりにして，錫山相撲の課題について若干の考察を述べたい。

まず，今回の来場者の属性を見て注目すべきは，校区外から「はじめて」来たという人が思いのほか多い点である。相撲大会を知ったきっかけも，友人の次に広告によるものが多い。これは錫山校区外の人びとへの PR の余地がまだあるということであろう。また，小・中学生の取り組みを目当てにした来場者も多いことから，大会に出場した子どもの保護者の来場も目立つ。さらに，大部分の人が「また来たい」と思っているということは，実際に見てみても錫山相撲が魅力的な行事であるということである。

こうしてみると，よりいっそうPRに努めることで潜在的な参加者の開拓が可能であると思われる。とくに錫山校区以外の小・中学生に参加を呼び掛けることで，より広く大会の周知を図ることが可能ではないだろうか。いずれにしても，大会当日のアクセスや受け入れ態勢のさらなる充実という点も課題となるだろう。

謝辞

本稿を作成するにあたり，錫山相撲大会実行委員会の方々ならびに錫山校区の住民の皆さまに多大なるご協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

文献

1. 鹿児島市発行，2015,「知っ得情報 伝統行事が地域の絆に 調べてきました～錫山町内会」,『かごしま市民のひろば』8月号（第579号），p.11.
2. 武田篤志編著，2012,「都市のイベント型祭りと場所の伝統文化～第32回谷山ふるさと祭のエスノグラフィ調査～」,『南西日本の社会と文化　2011（平成23）年度社会調査実習報告書』鹿児島国際大学福祉社会学部発行，pp.25–30.
3. 武田篤志，2014,「『谷山ふるさと祭』の変遷：第1回～第34回（1980-2013）」，鹿児島国際大学附置地域総合研究所発行『地域総合研究』第42巻第1号，pp.1–17.

【付録資料】アンケート用紙（調査票）

第359回錫山相撲大会　アンケート

鹿児島国際大学経営学科４年の奥山智裕と申します。卒業研究の一環で錫山相撲大会の調査を実施しております。ご協力お願いします。該当するものをマルで囲んでください。

1. はじめに、恐れ入りますがあなたご自身について教えてください。
   ①性　別：男性 ／ 女性
   ②お住まい：錫山校区内 ／錫山校区外（鹿児島県内）／ 県外
   ③年　齢：10代 ／ 20代 ／ 30代 ／ 40代 ／ 50代 ／ 60代 ／ 70代以上
   ④ご職業：小学生／中学生／高校生／専門学校／大学生／農林水産業／商工業(自営業)
   会社員／専業主婦／公務員／学校関係／無 職／その他（　　）

2. 錫山相撲大会に来られたのは何回目ですか？
   A はじめて ／ B 2～4回以上 ／ C 5回以上 ／ D 10回以上

3. 上記で「はじめて」を選んだ方のみお答えください。
   今回、錫山相撲大会をどうやってお知りになりましたか？
   A 広告 ／ B 雑誌・書籍 ／ C 錫山校区にお住まいの友人・知人から
   D 錫山校区以外の友人・知人から ／ E その他（　　）

4. 今日は何をお目当てにいらっしゃいましたか？（複数回答可）
   A 相撲大会全体 ／ B 小・中学生による取組 ／ C 高校相撲部による対抗戦
   D 赤ちゃん土俵入り ／ E 一般力士による対抗戦 ／ F その他（　　）

5. 今日はどなたといらっしゃいましたか？
   A 家族 ／ B 親戚 ／ C 友人(または先輩･後輩) ／ D 恋人 ／ E お1人で

6. 来年もまた錫山相撲大会に来たいと思いますか？
   A はい ／ B いいえ ／ C わからない

7. 最後に錫山相撲大会のこれからについてご意見・ご要望などございましたらお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。